

最賃一律、働き方、中小企業、防災対策など 労働者・住民の切実な要求かけ、 自治体キャラバンすすむ

人間らしい働き方を実現し地域住民の暮らしと安全を守ろうと、県労連は十一月十一日から県内各市町村を訪問して要請・対話する自治体キャラバン2019に取り組み、県労連役員や加盟組織の代表などが参加しました。十月五日には自治体キャラバン実行委員会を組織し、



鮭川村の元木洋介村長（11月12日）

各加盟組織からも要請事項を募集。「こんな活動をすすべる組合になら入りたい」という人と結びつき組織拡大にもつなげようと、参加者の広げ方や要請事項毎に獲得目標とする回答等も議論しました。この中で新たに、会計年度任用職員制度をめぐる総がかり作戦が県労連の重点計画になりました。各地域労連も自治体キャラバンを開始し継続中です。最低賃金の大幅引き上げや全国一律最賃制確立については、人口流出の歯止めのために賛同する見解が引き続き目立ち、中小企業・小規模事業所支援やその

ようとの対話が深まりました。また、学校教員の異常な長時間労働について、変形労働時間の導入などでは決して問題が解決することはなく、教員の定数を抜本的に増やすことが必要だと強調

教員の変形労働制反対 せんせいふやそう 全山形教組が街頭署名

「教員の長時間労働をなくすため、せんせいふやそう」ー山形教組は十一月二十四日、山形駅東西自由通路で署名行動を行いました。全日本教職員組合が展開する「せんせいふやそうキャンペーン」の一環。公立学校への変形労働時間の導入に反対し、教員を大幅に増やして、日々の教育実践に向き合い、子どもたちが大切にされる教育現場をめざします。



教員の大幅増員を求める署名にサインする人たち

文科省の調査では、小学校教員の三割、中学校教員の六割以上が「過労死ライン」を超えた働き方になっています。厚労省調査でも、教員の一ヶ月当たりの時間外労働は平均七十七時間四十四分にもなっており深刻な状況が広がっています。当日は同教組の福岡修三委員長ら十三人が行動。署名は六十分間で約百二十筆が寄せられました。県労連から勝見忍議長、松木静雄副議長らも行動に参加しました。



真室川町の井澤能之副町長（11月14日）

独自の努力も語られました。会計年度任用職員制度については、雇用の安定をよりよい住民サービスにもつなげて、賃金や諸手当の改善に向け、財政措置を国にしっかりと要請しようとの対話が深まりました。

された。介護・福祉労働者の賃金・労働条件、農業振興や防災対策その他についても独自の取り組みや国・県への要望など意見交換しました。

憲法が生きて輝く教育と社会を 「教育のつどい」開かれる

山教組などがつくる実行委員会による第三〇回「教育のつどい」が十一月十六日、七日の両日、山形市内で開かれ、二日間、のべ八二人が参

加しました。一日目は四つの分科会に分かれて討論を深めました。「私たちの願う働き方を考えよう」分科会では、県労連の佐藤完治事務局長が話題提起を行いました。二日目の全体会では、桐朋中学校・高等学校教諭で、みなみ野自然塾代表の荒井嘉夫さんが「子どもの笑顔が輝く学校を」と題して記念講演がありました。みなみ野自然塾（東京・八王子）は住民や学校などと共同し、稲作や畑作、里山保全活動に取り組む市民団体。荒井氏は実践を交えて語りました。

域から余裕が失われている状況をふまえ、子どもの本来の成長と学びへの願いにこたえ、平和憲法のもとで主権者を育てる教育の再生をめざすアピールを採択しました。



講演を熱心に聞く参加者

やまがた
県労連

発行責任者
勝見忍
山形市薬師町2-6-15
TEL 023(615)2172
FAX 023(615)2173
URL: <http://www.yamagataroren.com/>
Email: yamagataroren@yahoo.co.jp

安倍首相、逃げるな！ 国会が終わっても疑惑追及は続く 国民大運動実行委員会が街頭行動

県労連が事務局を務める「軍事費を削ってくらしと福祉・教育の充実を」国民大運動実行委員会は十一月二十八日と十二月九日の二回にわたって、JR山形駅前で「桜を見る会」疑惑の徹底説明を求める街頭アピール行動を展開しました。同実行委員会の事務局長である勝見議長が「国民には消費税一〇％への増税を押しつけておいて、自分は税金を私物化し選挙に利用することなど許されない。安

倍首相は真実を語るべきだと厳しく批判。シールアンケートで、「安倍首相の説明は信頼できるか」「ホテルニューオータニで五〇〇〇円会費で会食できるか」を問い、全員が「信頼できない」「五〇〇〇円ではできない」にシールを貼りました。国会最終日となった十二月九日の二回目の行動では、シールアンケートでは「信頼できるか」に加え、「政府は国民のために税金を使



「安倍首相を逃がすな！幕引きは許さない」とアピール



シールアンケートで『信頼できない』に貼る市民

っているか」の問いを設定。圧倒的多数の人が「信頼できない」「国民のために使っていない」「シールを貼りつけました。五〇代女性は「私たちが苦勞して納めている税金をなんだと思っ

と怒りをあらわにしました。二〇代の男女は「安倍首相の対応は気分がよくない」とバツサリ。七〇代男性は「税金は個人のものでない。総理はウソばかりの人でなく正直な人がやるべきだ」と語気を強めました。同実行委員会は、桜疑惑の徹底説明を求める行動を継続することにしています。

芳賀道也参院議員は、厚労省が「再編」の議論が必要」と

夏参院選で当選した芳賀道也参院議員は十一月十九日、参院厚労委員会に立ちました。芳賀議員は、厚労省が「再編」の議論が必要」と

とコメントしています。「最適地」とされた秋田県での防衛省の調査がゴマカシに満ちたものであることが明らかとなり、大問題になりました。要請書では、陸上イージスは軍事基地であり、日常的に発する強力な電磁波により人体にも影響するばかりか、相手から反撃を受ければ、配備された地域は「戦地」となる危険があると指摘しています。同会の高木紘一、森伊織共同代表、県労連の勝見議長らが要請しました。県防

災くらし安心部の佐藤仁喜弥部長が対応。「八月末に防衛省から『調査結果に誤りがあるので再調査する』との連絡をうけた」と報告。その後は何らの連絡もなく、調査箇所や期間などの詳細は何も知らされていなかったことが明らかになりました。参加者は「国と県の関係はそのようなことでよいのか」「いくら国有地でも許されるのか」と迫りました。同部長は、「県としても情報収集に努める」とこたえました。参加者は、「秋田県でいらぬものは山形県でも全国でもいらぬ」と強調しました。

質問する芳賀道也参院議員(11月19日・参院厚労委)

イージスアショア配備・調査するな 安倍9条改憲NO！県民の会が県に要請

県労連や平和センターなどで行く「安倍九条改憲NO！やまがた県民の会」は十一月七日、県に対してイージスアショア配備の再調査に関する要請を行いました。吉村知事は定例会見で、「調査はやむを得ない」としつつも「県民の気持ちを一番に考える」

とコメントしています。「最適地」とされた秋田県での防衛省の調査がゴマカシに満ちたものであることが明らかとなり、大問題になりました。要請書では、陸上イージスは軍事基地であり、日常的に発する強力な電磁波により人体にも影響するばかりか、相手から反撃を受ければ、配備された地域は「戦地」となる危険があると指摘しています。同会の高木紘一、森伊織共同代表、県労連の勝見議長らが要請しました。県防

芳賀道也参院議員が初質問 公立病院「再編」など政府をただす 参院厚労委

して全国四二四の公立病院名を公表した問題を取り上げました。「地方では驚きと不安が広がっている。すでに統合された酒田市の八幡病院まで含まれている。あまりにもお粗末だ。地方への細やかな配慮をするべきだったという反省はないのか」ときびしく指摘すると加藤勝信厚労大臣は「地域で判断する参考資料として出した。出し方について批判されたことは真摯に反省する」と答えました。芳賀氏はさらに「地方では身近な病院が消えていく不安がある。日本のどこにいても安心して医療を受けられるようにするのは国の責任だ」とたたみかけました。厚労省は、医療機関の再編を「決めていくのは都道府県。財政支援も必要」とし、「医療法で定める国の責任は重く受け止める」と答弁しました。他に、不妊治療、子ども

の貧困、子宮頸がんワクチンなどの問題を取り上げました。



質問する芳賀道也参院議員(11月19日・参院厚労委)